

氏名	竹 内 鬼三郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 266 号
学位授与の日付	昭和43年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	胃癌の水解および脱水素酵素の組織化学的研究 第1報 胃癌組織分類委員会の胃癌の組織学的分類及び胃癌 研究会の胃癌取り扱い規約と酵素活性との関連性につ いて 第2報 胃癌の臨床像と癌組織の酵素活性との関連性につ いて
論文審査委員	教授 田中 早苗 教授 砂田 輝武 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

adenocarcinoma の癌細胞において、未分化癌ほど酵素活性が一般に漸減したが、浸潤度に関しては判然とした傾向はなかった。被検酵素中 lactic dehydrogenase が最強の活性を示した。carcinoma simplex は adenocarcinoma よりも、scirrhous は carcinoma simplex よりもそれぞれやや減弱した活性を呈した。Borrmann 分類で限局型より浸潤型の方が弱い活性を呈した。(第1報)

血清 Alp-ase 値と組織化学的 alkaline phosphatase 活性間には相関々係は認められなかった。低・無酸症例群の癌細胞に leucine aminopeptidase 活性が強く認められた。制癌剤使用群の酵素活性は低下している傾向を認めた。線維性間質の酵素活性が強いものは予後が良好であるという傾向が出た。(第2報)

(昭和42年 8 月30日岡山医学会雑誌第79巻7.8合併号に掲載)

論文審査の結果の要旨

本研究は胃癌組織で13種類の酵素活性を組織化学的にしらべ、その組織化学的分類と癌の進展度との関係、並びに胃癌の臨床像との関連性についてしらべ、そうした方面に多くの新知見を得ている。従来こうした面より探策した研究は殆んどなく、多数の症例について重要な知見を得たもので極めて価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。